

2025年3月期 上期 決算説明会資料

2024年11月6日



株式会社新日本科学

SHIN NIPPON BIOMEDICAL LABORATORIES, LTD.

1. 上期総括と今後の見通し	P. 3
2. 2025年3月期 上期決算概要	P. 6
3. 事業トピックス	
①CRO事業（非臨床）	P. 19
②CRO事業（臨床）	P. 26
③TR事業	P. 28
④メディポリス事業	P. 39
4. Q&A	

1. 2025年3月期 上期総括と今後の見通し



代表取締役会長兼社長
永田 良一

1. 2025年3月期 上期業績

- 業績、受注高ともに通期予想に対して計画通り順調に進捗
- 新日本科学PPD（関連会社）からの持分法利益は、前上期比38%増の17億円と過去最高を更新
- 新社屋研究棟は9月から本格的に稼働

2. 2025年3月期 下期見通しと今後の方向性

- 海外からの顧客獲得を強化する組織体制（Global Study Team:GST）をスタート
- Satsuma社経鼻偏頭痛薬 STS101は10月30日（米国時間）に米国FDAに再申請
- 米国ワシントン州の当社施設において、SBIグループと業務提携し、スタートアップ企業のインキュベーション事業と投資を共同実施

3. 企業価値向上に向けた人的資本経営への取り組み

- 9月に厚生労働大臣から「プラチナくるみんプラス」認定（鹿児島県初）を取得



新社屋研究棟（地上8階建・2棟）の本格運用を開始



2. 2025年3月期 上期決算について



常務執行役員
IR広報統括部長
サステナビリティ担当
岩田 俊幸

2025年3月期上期 決算ハイライト



- 上期業績は期初予想を上回り、通期計画に対して想定通り順調に進捗
- 米国Satsuma社の経費12.7億円を計上したこと、非臨床事業の事業環境をさらなる成長の好機ととらえ戦略的に大型先行投資を継続していること等により、コストが大幅にアップ

(単位：億円)

	2024年 3月期 上期実績	2025年3月期			
		上期 期初予想	上期 実績	前期比	
売上高	118.8	120.0	125.0	+6.2	5.3%
営業利益	23.4	△2.0	0.8	-22.6	-96.6%
経常利益	37.5	13.3	18.2	-19.2	-51.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	29.6	8.5	13.3	-16.3	-55.1%

2025年3月期 上期収益構造

【上期の収益構造の推移】

(単位：百万円)

	FY3/23	FY3/24	FY3/25	増加額
	上期	上期	上期	
売上高	10,348	11,884	12,508	624
売上原価	4,943	5,530	5,985	455
労務費	2,882	3,409	3,832	423
売上総利益	5,405	6,353	6,523	170
売上総利益率	52.2%	53.5%	52.2%	
販売管理費	3,091	4,003	6,443	2,440
人件費	1,250	1,374	1,961	587
研究開発費	265	482	1,276	794
飼育管理費	376	531	946	415
販売管理費比率	29.9%	33.7%	51.5%	
営業利益	2,313	2,349	80	-2,269
営業利益率	22.4%	19.8%	0.6%	
営業外損益	3,615	1,407	1,749	342
持分法利益	1,113	1,239	1,834	595
内、新日本科学PPD	986	1,232	1,708	476
為替差損益	2,586	242	-96	-338
経常利益	5,928	3,756	1,829	-1,927
経常利益率	57.3%	31.6%	14.6%	

【戦略的な大型先行投資によるコストアップの主因】

- ・ 人件費（売上原価中の労務費および販売管理費の人件費合計）
：前上期比 10.1億円増（うちSatsuma社 4.4億円）
- ・ 研究開発費：前上期比 7.9億円増（うちSatsuma社 7.3億円）
- ・ 飼育管理費：前上期比 4.1億円増（国内NHP繁殖の強化が主因）
- ・ 減価償却費：前上期比 2.5億円増（大型設備投資による）

【持分法利益】 5.9億円の増益要因

24/3期上期 +12.3億円
⇒25/3期上期 +18.3億円

【為替差損益】 3.3億円の減益要因

24/3期上期 +2.4億円
⇒25/3期上期 △0.9億円

2025年3月期 上期セグメント別の収益構造



【上期のセグメント別売上高・営業損益の推移】

(単位：百万円)

		FY3/23 上期	FY3/24 上期	FY3/25 上期	伸び率
CRO事業	売上高	9,785	11,490	12,199	6.2%
	営業利益	2,802	2,942	2,205	-25.1%
	営業利益率	28.6%	25.6%	18.1%	
	持分法利益	1,113	1,239	1,834	48.0%
	(うち新日本科学PPD)	986	1,232	1,708	38.6%
	事業利益	3,915	4,181	4,039	-3.4%
TR事業	売上高	11	6	15	
	営業利益 (うちSatsuma)	-328	-498	-1,775 -1,272	
メディポリス事業	売上高	303	348	225	
	営業利益	-147	-57	-221	
その他事業	売上高	806	742	1,239	
	営業利益	52	69	60	
調整額	売上高	-558	-704	-1,170	
	営業利益	-65	-106	-189	
合計	売上高	10,348	11,884	12,508	5.3%
	営業利益	2,313	2,349	80	-96.6%
	営業利益率	22.4%	19.8%	0.6%	

※事業利益は営業利益 + 持分利益

非臨床事業の受注高と受注残高の推移



【新日本科学の非臨床事業の四半期別受注動向】

(単位：百万円)

	FY 3/23					FY 3/24					FY 3/25		
	Q1	Q2	Q3	Q4	通期	Q1	Q2	Q3	Q4	通期	Q1	Q2	通期 (予)
受注高	7,219	6,153	5,905	5,642	24,920	8,398	4,217	8,044	6,752	27,411	7,170	8,141	34,284
国内受注高	3,887	3,754	3,726	4,971	16,339	6,208	3,471	5,051	5,628	20,358	4,001	5,755	21,829
海外受注高	3,332	2,399	2,179	671	8,581	2,189	745	2,993	1,124	7,051	3,170	2,385	12,455
欧米	2,844	484	1,489	420	5,237	1,661	827	1,830	755	5,073	1,659	1,994	-
アジア	488	1,915	690	251	3,344	527	-81	1,162	368	1,976	1,510	391	-
海外受注高比率	46.2%	39.0%	36.9%	11.9%	34.4%	26.1%	17.7%	37.2%	16.6%	25.7%	44.2%	29.3%	36.3%
キャンセル	-549	-926	-1,414	-1,281	-4,169	-475	-1,559	-834	-1,110	-3,978	-2,217	-1,043	-
新規受注額	7,768	7,079	7,319	6,923	29,089	8,873	5,776	8,878	7,862	31,389	9,388	9,184	-
受注残高	25,756	33,672	32,585	29,248	29,248	33,329	32,210	33,863	33,212	33,212	36,051	35,877	-

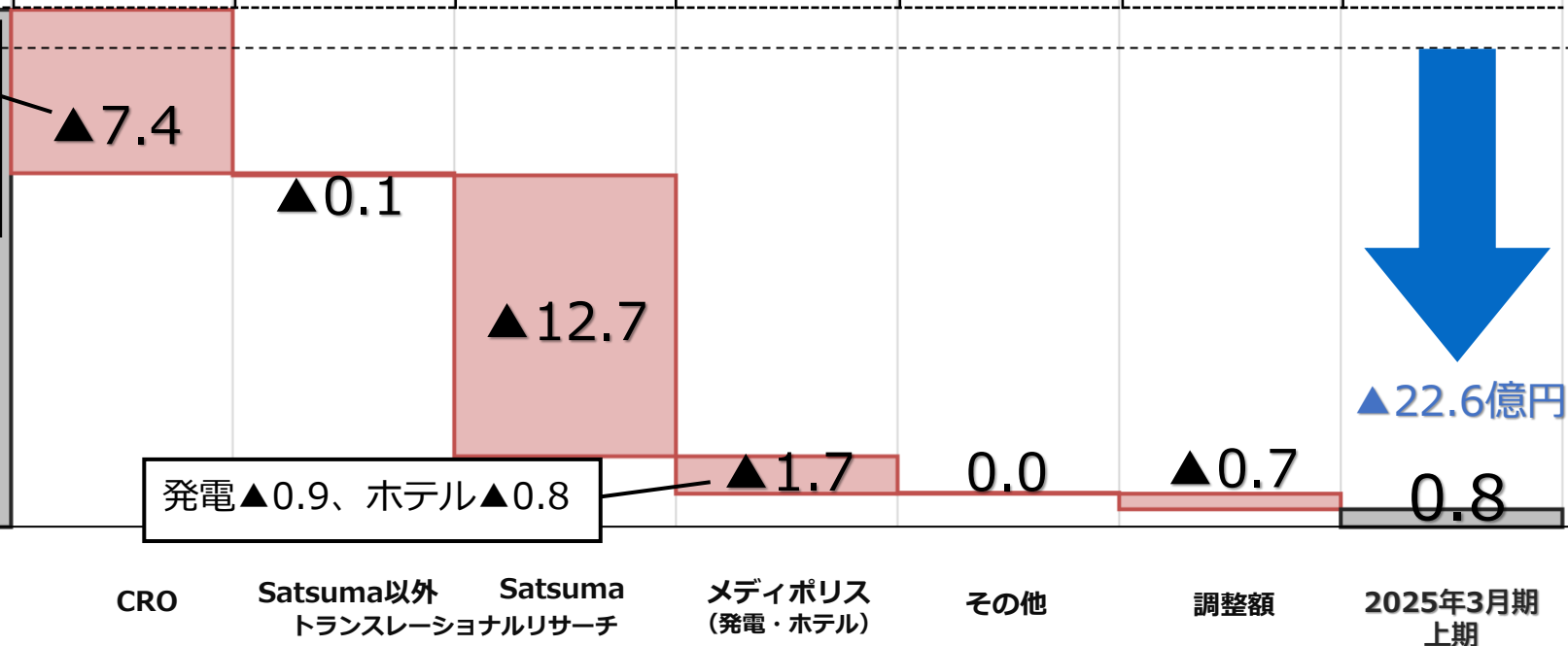
- (注) 1. 23/3期Q2からイナリサーチ含む。受注済案件の中止（キャンセル）が発生した場合は、その時点でマイナス計上
 2. 海外受注高は円換算レートを各期の期中平均レートで算定しております。
 3. 海外受注残高は円換算レートを各期の期末レートで算定しております。

2025年3月期上期 連結営業利益 前期比較



(億円)	CRO事業	トランスレーショナル リサーチ事業		メディポリス 事業 (発電・ホテル)	その他	調整額	営業利益 合計
		Satsuma以外	Satsuma				
2025年3月期上期実績	22.0	-5.0	-12.7	-2.2	0.6	-1.9	0.8
2024年3月期上期実績	29.4	-4.9	0.0	-0.5	0.6	-1.2	23.4
前期比増減額	-7.4	-0.1	-12.7	-1.7	0.0	-0.7	-22.6

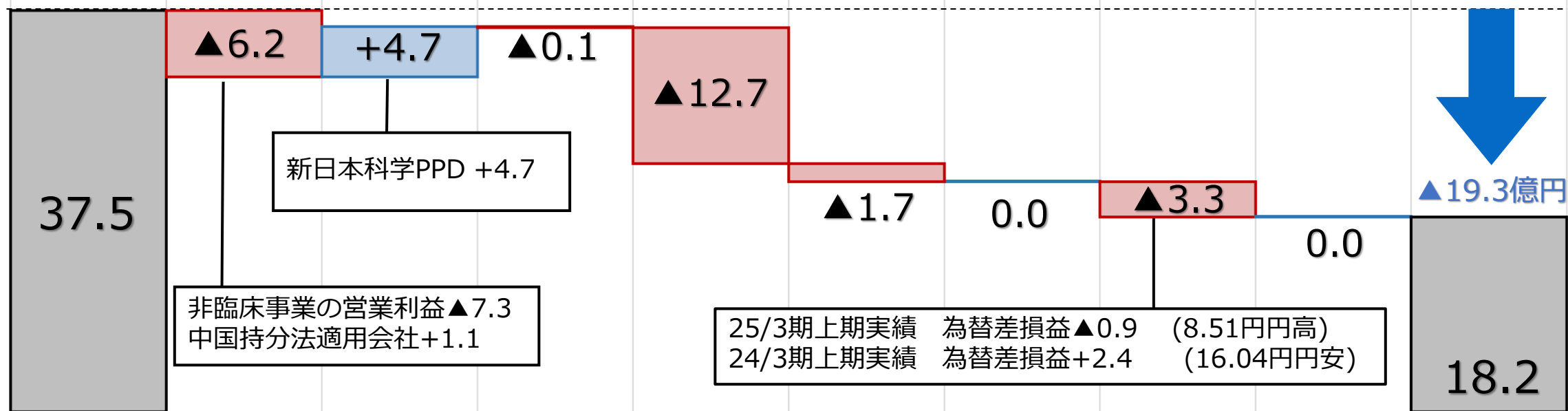
NHPサプライチェーンの強化、
積極的な人材採用等に先行投資
国内非臨床▲7.9
その他+0.5



2025年3月期上期 連結経常利益 前期比較



(億円)	CRO事業		トランスレーショナル リサーチ事業		メディポリス 事業 (発電・ホテル)	その他	為替差損益	調整	経常利益 合計
	非臨床事業	臨床事業 (新日本科学PPD含む)	Satsuma以外	Satsuma					
2025年3月期上期実績	23.5	17.5	-5.0	-12.7	-2.2	0.6	-0.9	-2.6	18.2
2024年3月期上期実績	29.7	12.8	-4.9	0.0	-0.5	0.6	2.4	-2.6	37.5
前期比増減額	-6.2	+4.7	-0.1	-12.7	-1.7	0.0	-3.3	0.0	-19.3



2024年3月期
上期

非臨床

臨床
(新日本科学PPD
含む)

Satsuma以外
トランスレーショナルリサーチ

Satsuma

メディポリス
(発電・ホテル)

その他

為替差損益

調整

2025年3月期
上期

2025年3月期 通期業績予想



- 売上高は24/3期比12.8%増、3期連続過去最高を予想
- 営業利益の減益（18.1億円減）予想は、Satsuma社の偏頭痛治療薬のFDA承認に向けた経費32.9億円（24/3期比19.5億円増）が主因

(単位：億円)

	2024年 3月期	2025年3月期		
		通期 業績予想	前期比	
売上高	264.5	298.3	+33.8	12.8%
営業利益	41.6	23.5	-18.1	-43.5%
経常利益	70.1	53.4	-16.7	-23.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	55.3	39.2	-16.1	-29.1%

定常利益 Satsuma、為替、特別損益による影響を除く			
2024年 3月期	2025年3月期		
	通期 業績予想	前期比	
264.5	298.3	+33.8	12.8%
55.0	56.4	+1.4	2.6%
83.0	86.4	+3.4	4.1%
68.7	72.3	+3.6	5.2%

事業セグメント別の推移



【セグメント別 売上高・営業損益】

(単位：百万円)

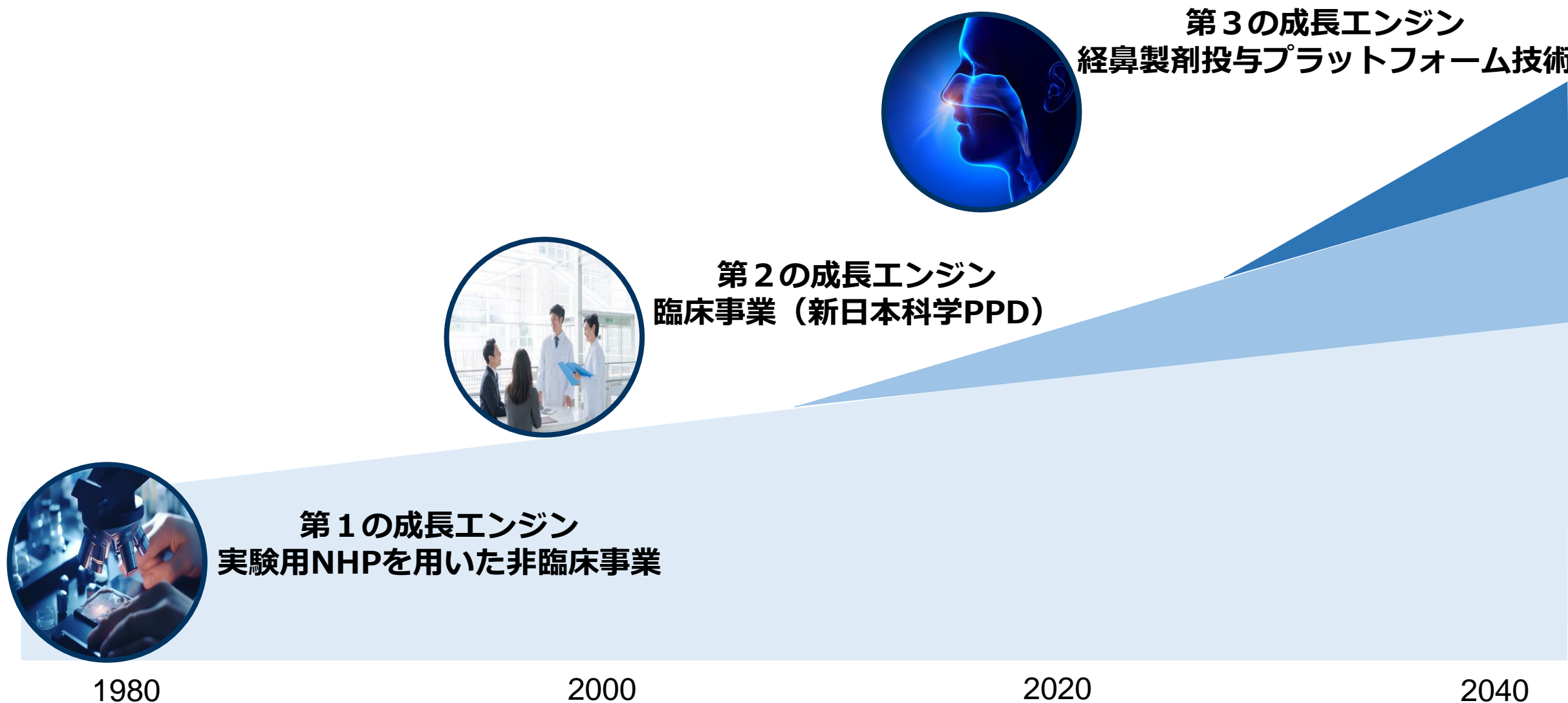
	FY 3/21	FY 3/22	FY 3/23	FY 3/24	伸び率	FY 3/25 (予)	伸び率	
CRO事業	売上高	14,508	17,047	24,000	25,909	8.0%	29,247	12.9%
	営業利益	3,393	5,035	6,336	6,998	10.4%	7,878	12.6%
	営業利益率	23.4%	29.5%	26.4%	27.0%		26.9%	
	持分法利益	848	1,438	2,489	2,751	10.5%	2,981	8.4%
	(うち新日本科学PPD)	864	1,258	1,967	2,631	33.8%	2,772	5.4%
	事業利益	4,241	6,473	8,825	9,749	10.5%	10,859	11.4%
TR事業	売上高	12	12	16	13		10	
	営業利益	-708	-746	-879	-2,465		-4,801	
	(うちSatsuma)				-1,344		-3,297	
メディポリス事業	売上高	552	563	683	569		432	
	営業利益	-54	-17	-203	-254		-463	
その他事業	売上高	503	968	1,437	1,407		2,063	
	営業利益	-35	41	110	88		16	
調整額	売上高	-466	-844	-1,047	-1,448		-1,916	
	営業利益	-65	-116	-118	-205		-280	
合計	売上高	15,110	17,748	25,090	26,450	5.4%	29,835	12.8%
	営業利益	2,529	4,195	5,245	4,162	-20.6%	2,350	-43.5%
	営業利益率	16.7%	23.6%	20.9%	15.7%		7.9%	

CRO事業は売上高、利益ともに過去最高を予想

Satsuma社赤字拡大（19.5億円）
予想が減益予想の主因

※事業利益は営業利益+持分利益

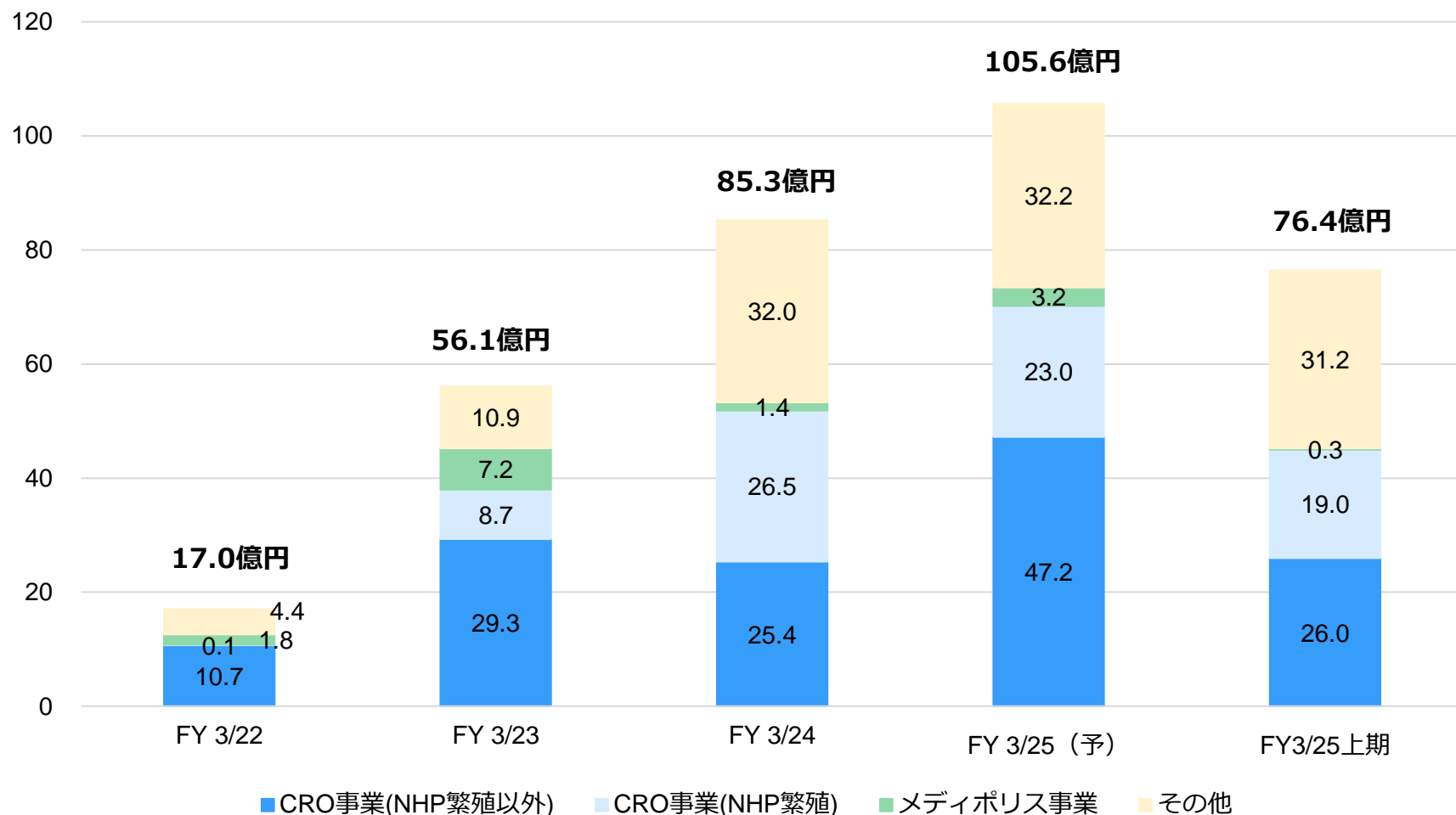
持続的成長のために第3の成長エンジンを稼働



設備投資の状況

2025年3月期上期の設備投資額は76.4億円

(単位：億円)



鹿児島本社 新社屋研究棟竣工

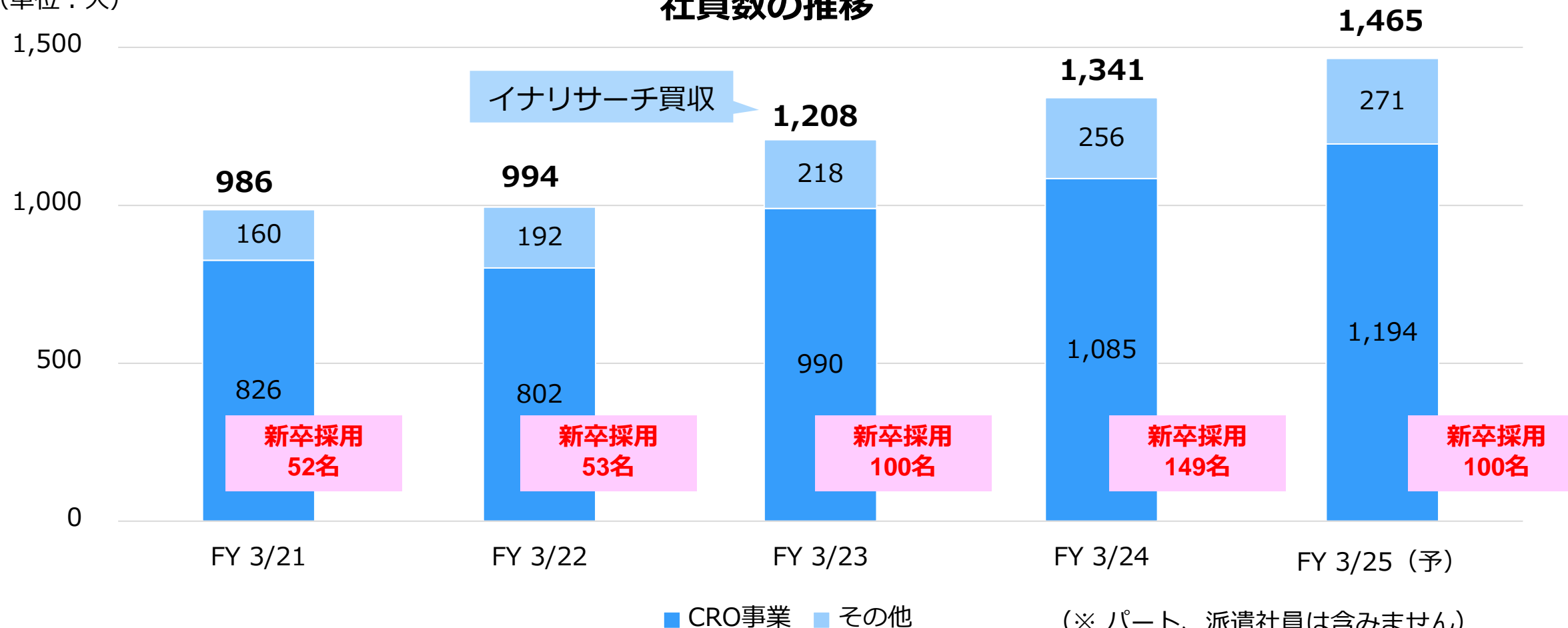
人財の大幅強化



新卒は、22年度：100名採用、23年度：149名採用、24年度：100名採用、25年度120名予定

(単位：人)

社員数の推移



為替評価損益（営業外損益に計上）

2025年3月期上期実績：

為替差損益 ▲96百万円（2024年3月末：151.33円 ⇒ 2024年9月末：142.82円）

1円/米ドル 円安の場合

2024年3月末時点 ▲13百万円 ⇒ 2024年9月末時点 ▲6百万円

2025年3月期 想定為替レート： 145円/米ドル

為替相場変動の影響：1円/米ドルの円安では、

- ・売上高： 52百万円プラス影響
- ・営業利益： 13百万円プラス影響

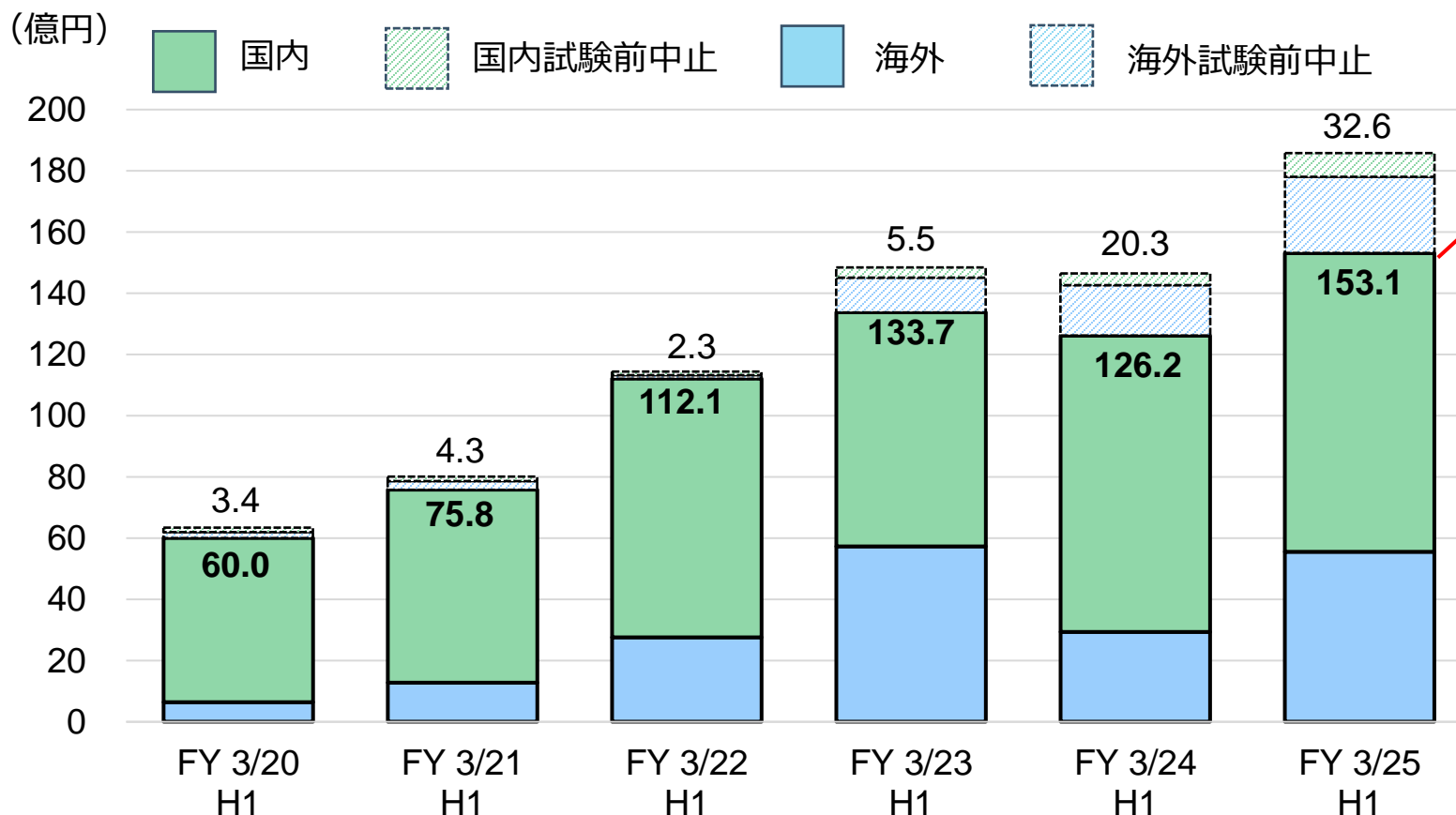
3. 事業トピックス

① CRO事業（非臨床）



専務取締役
欧米営業統括部長
角崎 英志

CRO事業：2025年3月期 上期 非臨床 受注状況（円ベース）



前期H1比 +26.9億円
換算レート(期中平均)152.46円/\$

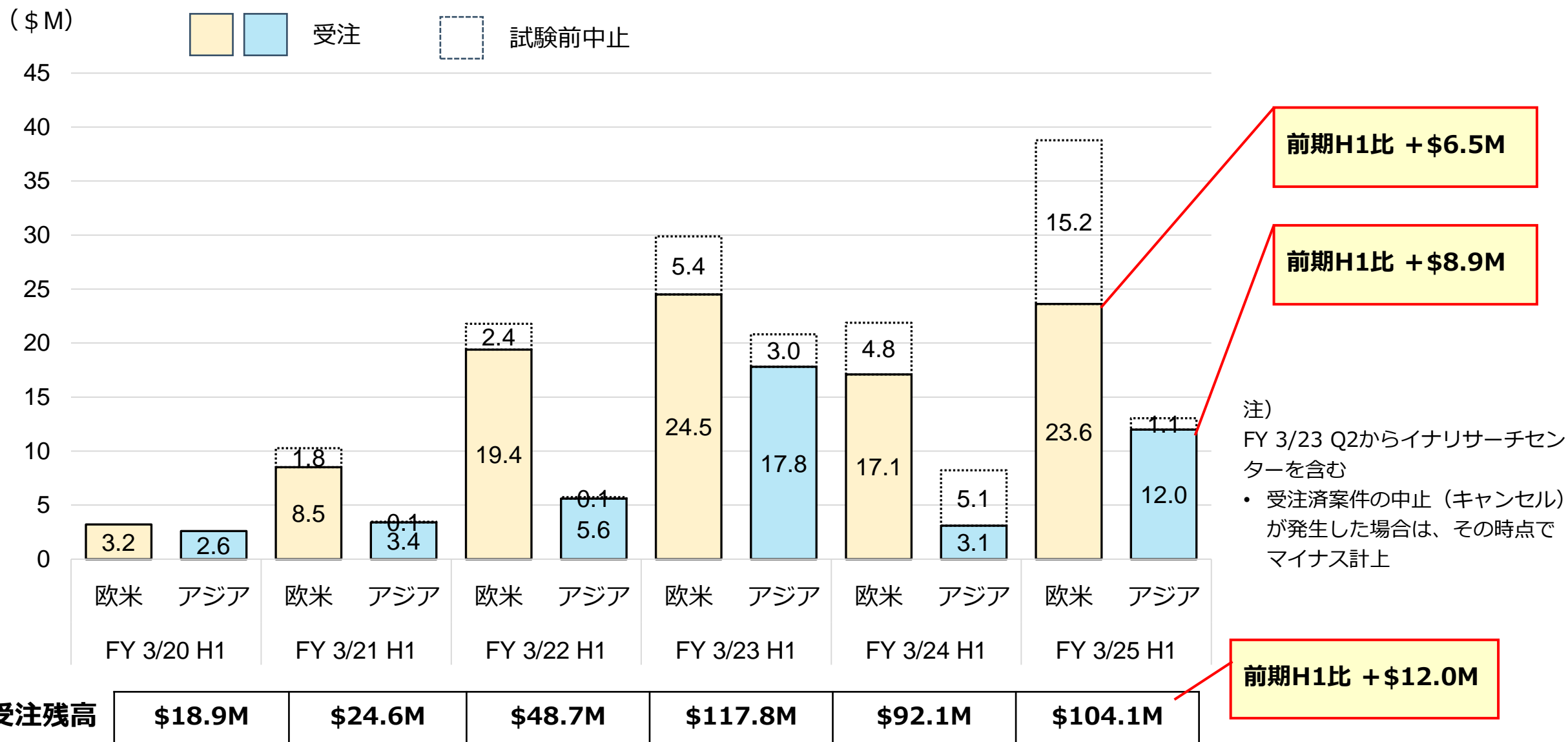
注) 23/3期 Q2からイナリサーチセンターを含む
・ 海外受注残高は円換算レートを各期の期末レートで算定

受注残高
海外受注高比率

113.4億円	126.8億円	176.7億円	336.7億円	322.1億円	358.7億円
10.6%	16.9%	24.6%	42.9%	23.2%	36.3%

前期H1比 +36.6億円

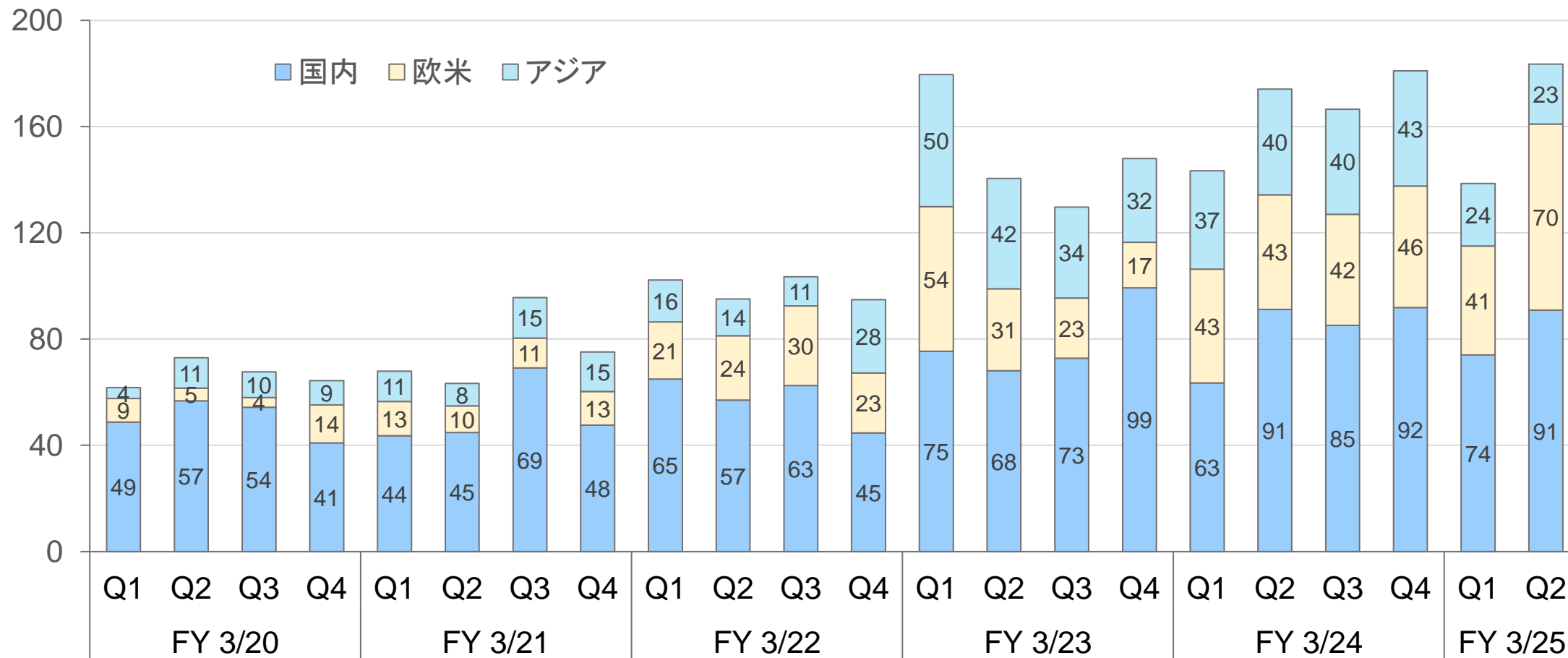
CRO事業：2025年3月期 上期 非臨床 海外からの受注状況（US\$ベース）



CRO事業：見積提出金額の推移

(単位：億円)

※ 海外の問い合わせ状況は円換算レートを各期の期中平均レートで算定

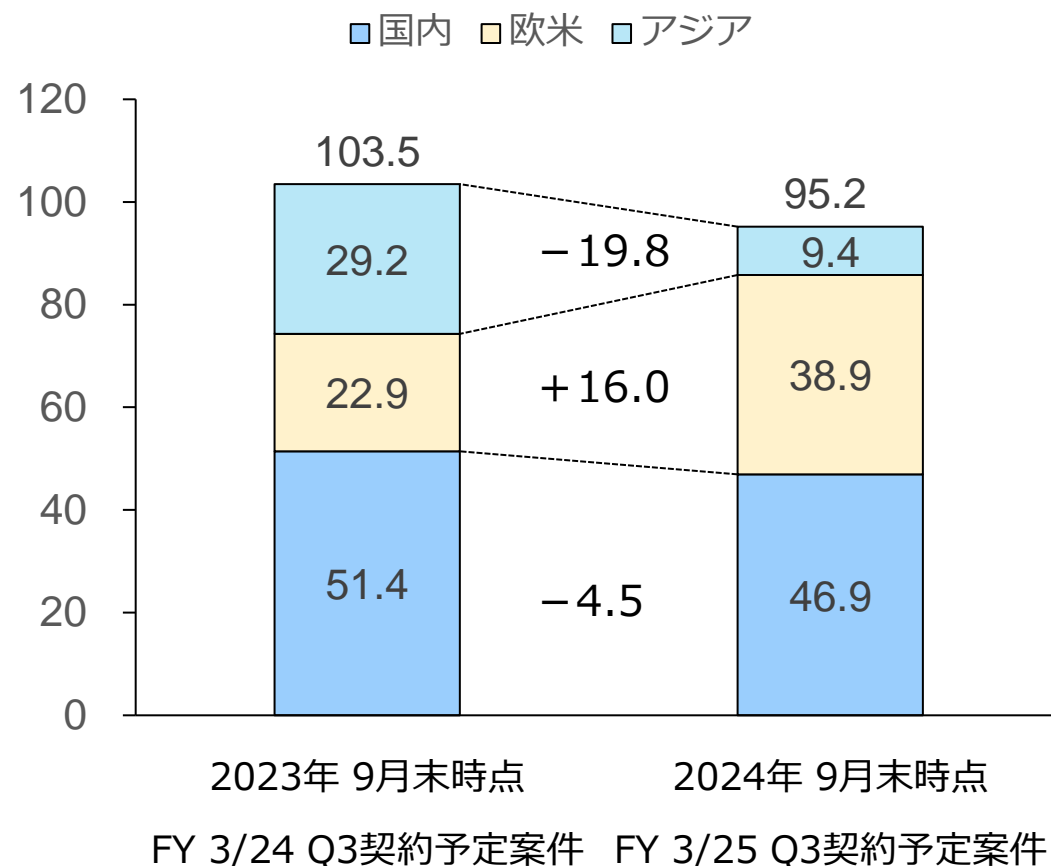
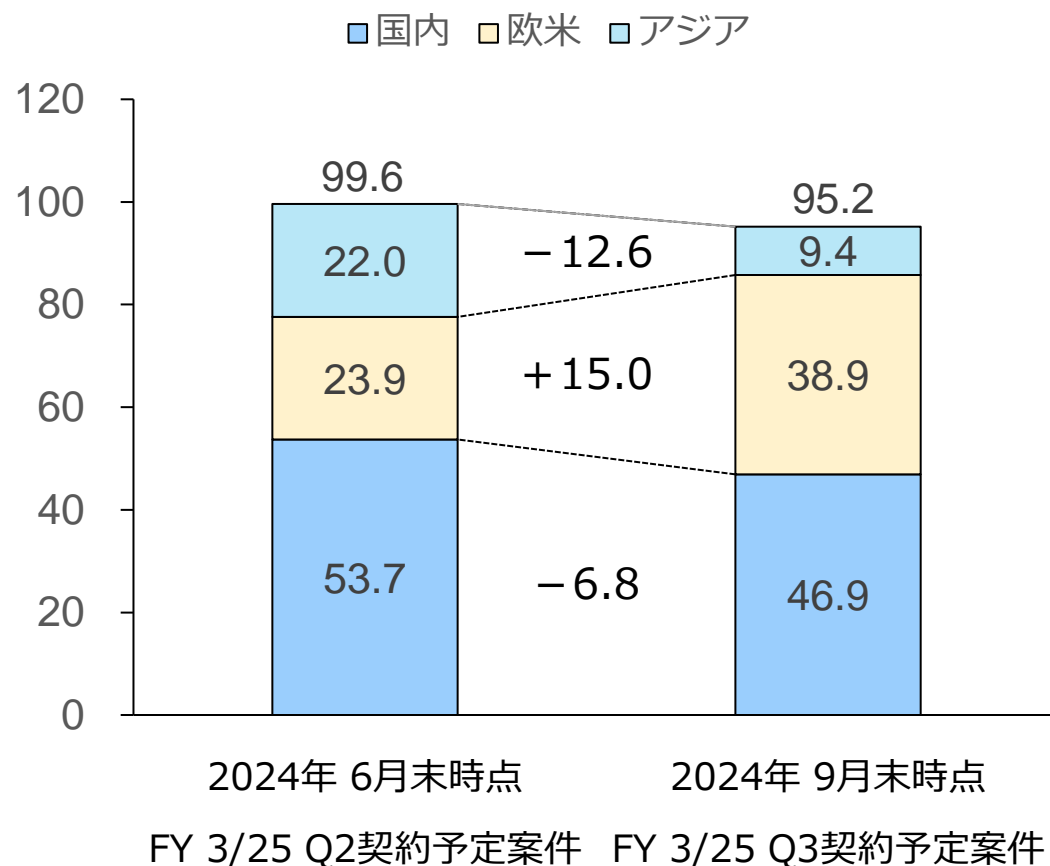


CRO事業：2025年3月期 第2四半期 問合せ状況



(単位：億円)

※ 海外の問い合わせ状況は円換算レートを各期の期中平均レートで算定



国内

国内受注回復

- ・ 2025年3月期第1四半期に低下した国内受注は回復し、2025年3月期上期の国内受注額は過去最高になった。

つくばにおける創薬エコシステム強化に向けたアステラス製薬との連携・協力

- ・ アステラス製薬株式会社の研究所の一つである、つくば研究センター内のオープンイノベーション拠点「SakuLab™-Tsukuba（つくば）」に隣接する施設内に、Science And Innovation Laboratory（SAIL、つくば事業所）を開設、非臨床実験に関するサービスを提供。

項目	業務内容
(1) 実験スペースの提供	レンタルラボ利用サービス
(2) 実験のサポート	顧客が実施する実験を当社のスタッフがサポート
(3) 非臨床試験の受託	毒性試験、PK試験、薬効試験など



海外

米国におけるマーケティング

・米国国内で非臨床関連最大の学会Society of Toxicologyの分科会であるNorthern California 2024 Fall Symposiumへ参加（10/15）。

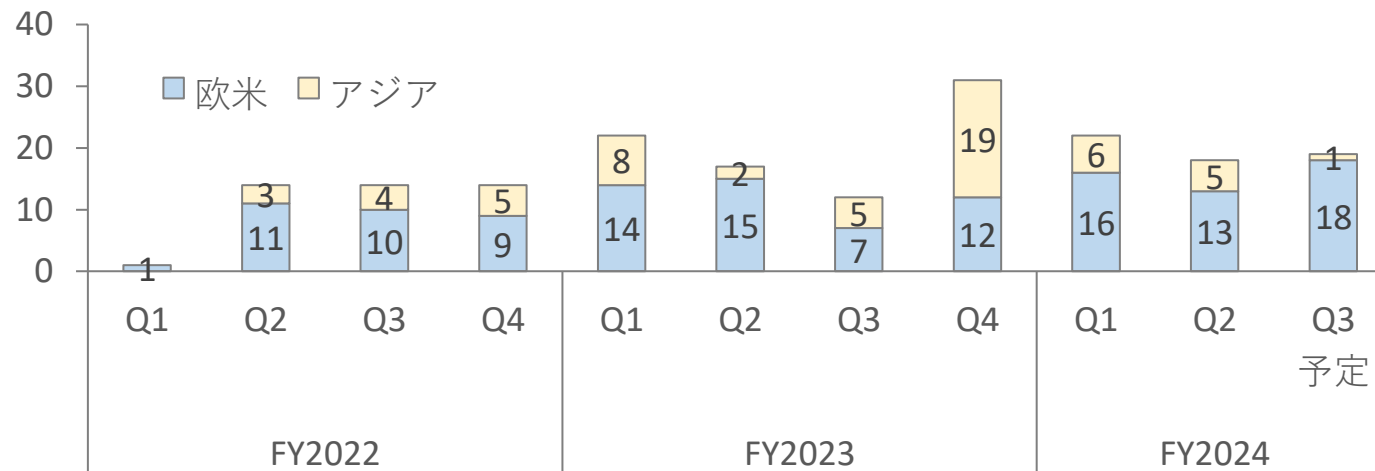
アジアにおけるマーケティング

・韓国国内で非臨床関連最大の学会The Korean Society of Nonclinical Study (KSNS)へ参加（10/17-10/18）。

海外顧客の訪問増加

・海外顧客の当社訪問は、引き続き高いレベルで推移している。

海外顧客の訪問件数推移



3. 事業トピックス

②CRO事業（臨床）



取締役副社長

CRO事業管掌・ホスピタリティ事業管掌

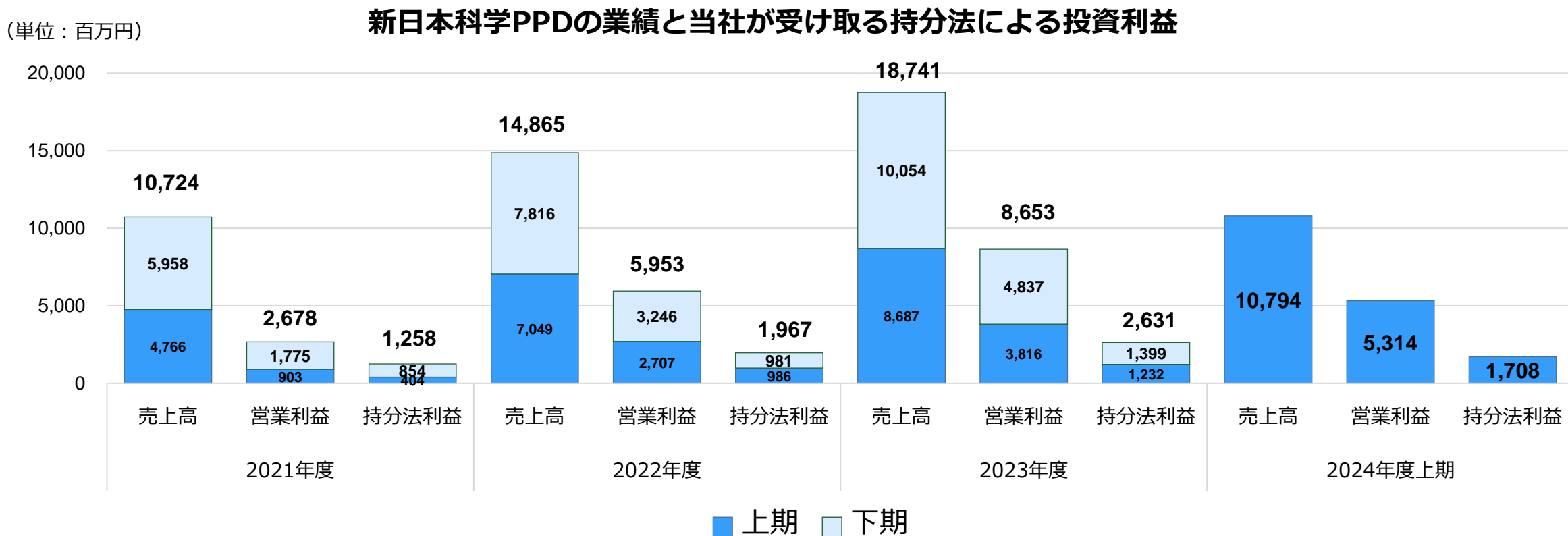
新日本科学PPD 代表取締役社長

永田 一郎

CRO事業：臨床事業について



- 新日本科学PPDの当上期の「持分法による投資利益」は1,708百万円（前期比+476百万円）と大幅に増加し、上期として過去最高を記録。
- 2024年9月末の従業員数は1,020人。



従業員数	760人	835人	945人	1,020人
------	------	------	------	--------

3. 事業トピックス

③TR事業



代表取締役副社長
グローバルビジネス管掌
高梨 健

Satsuma
 偏頭痛の急性期治療を目的とする

SNLD
 パーキンソン病患者のオフ症状の改善を目的とする



**経鼻粘膜ワクチン
 研究開発センター**

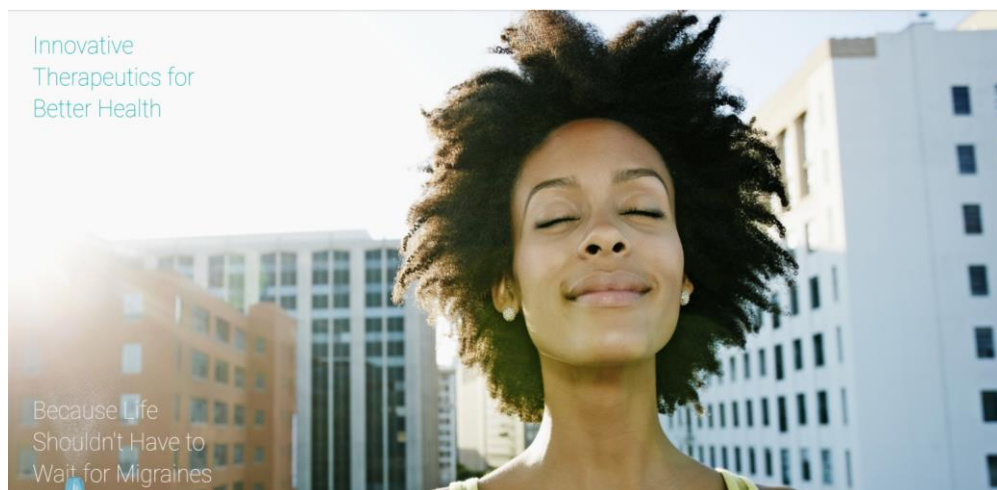
複数の呼吸器系ウイルスに対し上気道に遮断免疫能を付与する粉体型経鼻ワクチンの開発

研究助成金

Satsuma社が実施したSTS101の臨床第3相長期安全性試験(試験名:ASCEND)の成果に基づく論文が、2024年10月8日に中枢神経疾患の薬物療法に関して権威のある国際医学専門誌CNS Drugsに掲載されました。



経鼻偏頭痛薬(STS101)の開発に
特化したスペシャリティファーマ



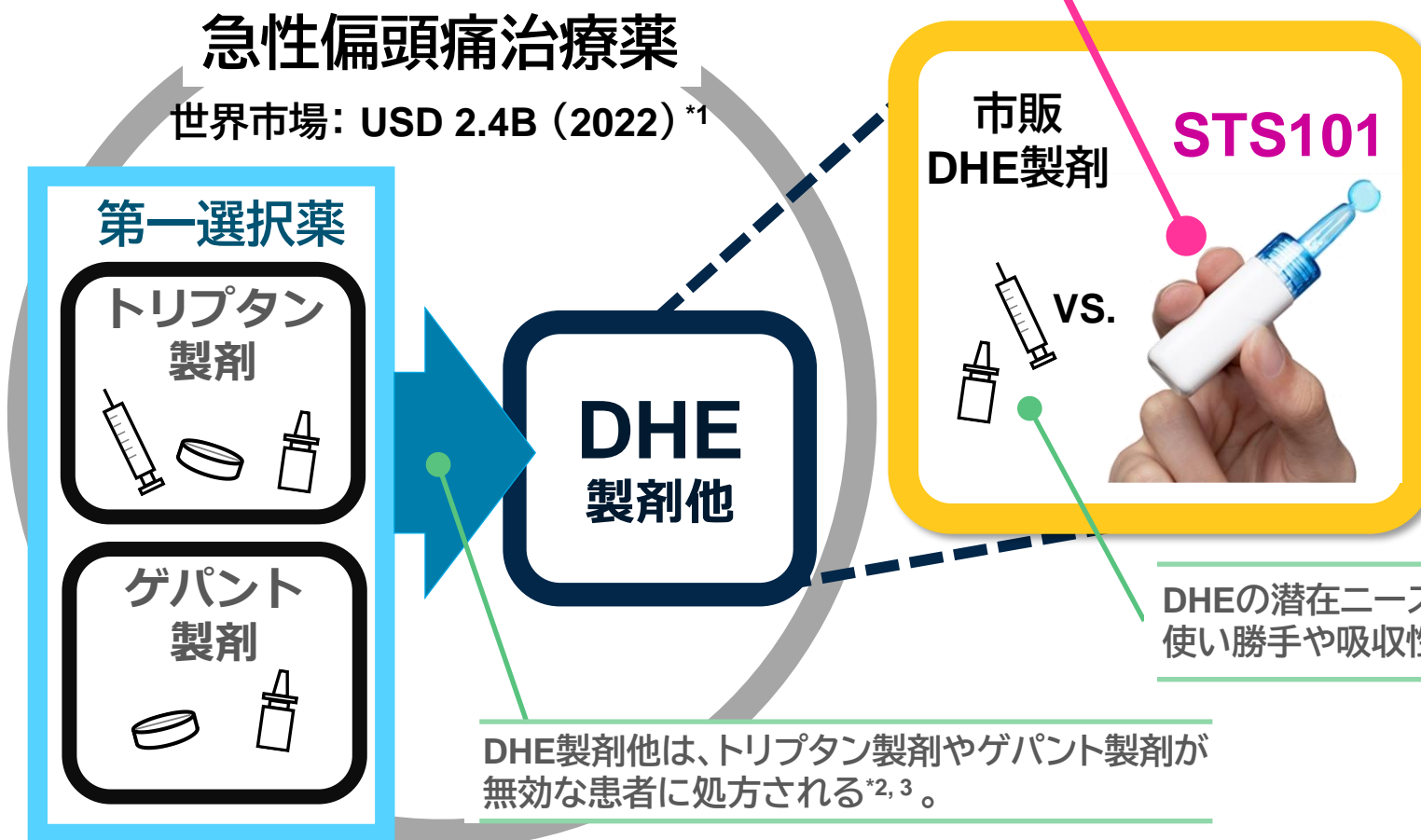
論文の筆頭著者は米国頭痛学会フェローであり、頭痛領域で国際的に著名なStewart J. Tepper医学博士です。同博士はSatsuma社のプレスリリースに「**STS101が安全で、忍容性が高く、患者が長期にわたって使用しやすいことがデータで実証されたこと**をうれしく思います。これは、既存の治療法では十分な緩和効果が得られなかった偏頭痛患者と、新しい治療法を求めている治療医にとって、非常に重要な情報です」「ここ数年で新しい治療法が導入されましたが、経口投与では迅速な緩和が得られない多くの患者には、新しい非経口治療の選択肢が極めて必要です」とのコメントをいただいております。



STS101は、偏頭痛に対して豊富な効果実績を有するジヒドロエルゴタミン(DHE)を有効成分とし、臨床試験で速やかで持続的な吸収と高い安全性が確認された、使い勝手と携帯性に優れた経鼻剤です。

STS101は、既存DHE製剤の問題を克服した新規経鼻DHE製剤です。

偏頭痛専門医100名に対する独自調査において、専門医が受け持つ偏頭痛患者の30%程にSTS101を処方したいとの調査結果を得ております。

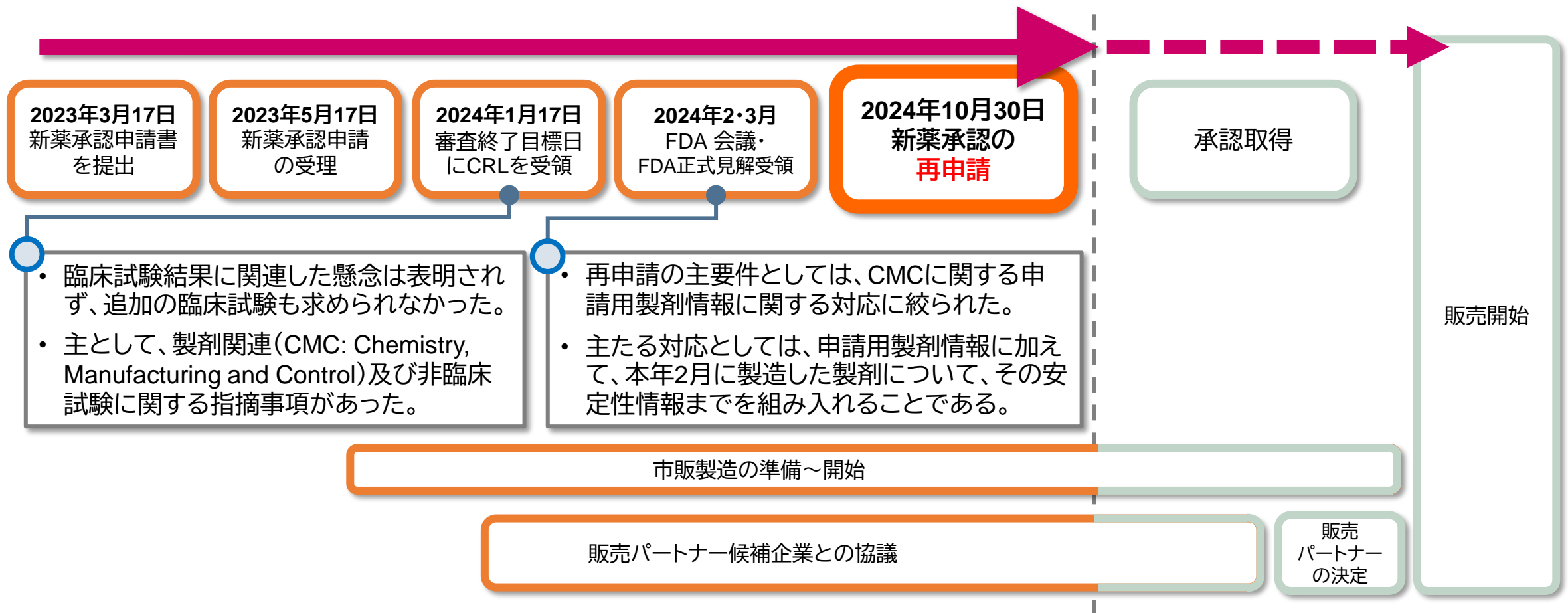


DHEの潜在ニーズは大きいものの、既存DHE製剤は、使い勝手や吸収性の問題等で処方され難い状況にある。

DHE製剤他は、トリプタン製剤やゲパント製剤が無効な患者に処方される*2, 3。

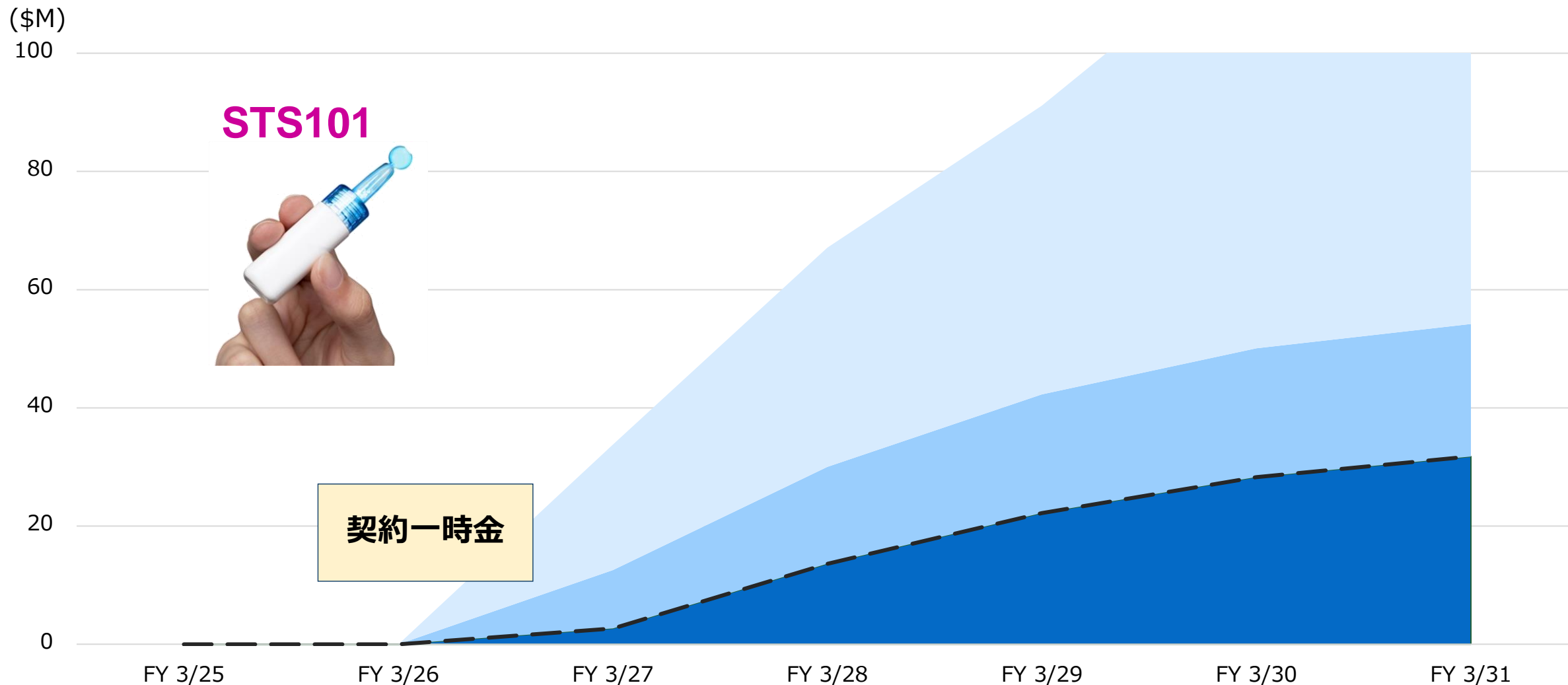
*1: Future Market Insight Inc., Report: Acute Migraine Treatment Market (<https://www.futuremarketinsights.com/reports/acute-migraine-treatment-market>)
*2: Dodick DW., Headache. 2005 Feb;45(2): 156-62.
*3. Deen M et al., The Journal of Headache and Pain. 2017. 18:98,

必要な製剤情報の収集を完了し、本年10月30日(米国時間)に米国FDAへSTS101の新薬承認の再申請を行いました。



TR事業：今後のSTS101開発と想定されるライセンス収入モデル

今後は、審査期間中のFDA対応に加えて、パートナーリング活動にも注力します。



TR事業：SNLD社によるパーキンソン病薬の開発を推進中



【パーキンソン病の主な運動症状】



手足が震える



転びやすくなる



動きが鈍くなる



筋肉や関節が固くなる

当社連結子会社SNLD社は、パーキンソン病（PD）のオフ症状に対して、自分で投与でき、速やかな症状改善が期待できる経鼻オンデマンド治療薬の国内開発を推進中

TR-012001
(リード開発品)

Phase 1 試験
(健常人安全性/PK) 試験

安全性、忍容性に大きな問題はなく、
速やかな血中濃度上昇を確認

Phase 2 試験

本邦で2024年1月に与薬開始/終了
治験総括報告書作成中
“リード開発品”を用いたPD患者対象のPOC試験

TRN501
(改良開発品)

Phase 1
(健常人安全性/PK) 試験

本邦で2024年8月に与薬終了
關鍵・データ解析に進む

さらなる経鼻吸収の改善を目指す、TR-012001の改良
開発品・TRN501を用いた日本人健康成人対象のP1試験

日本医療研究開発機構（AMED）

先進的研究開発戦略センター（SCARDA）

Mission

安全で効果的な日本初のワクチン創出に貢献します

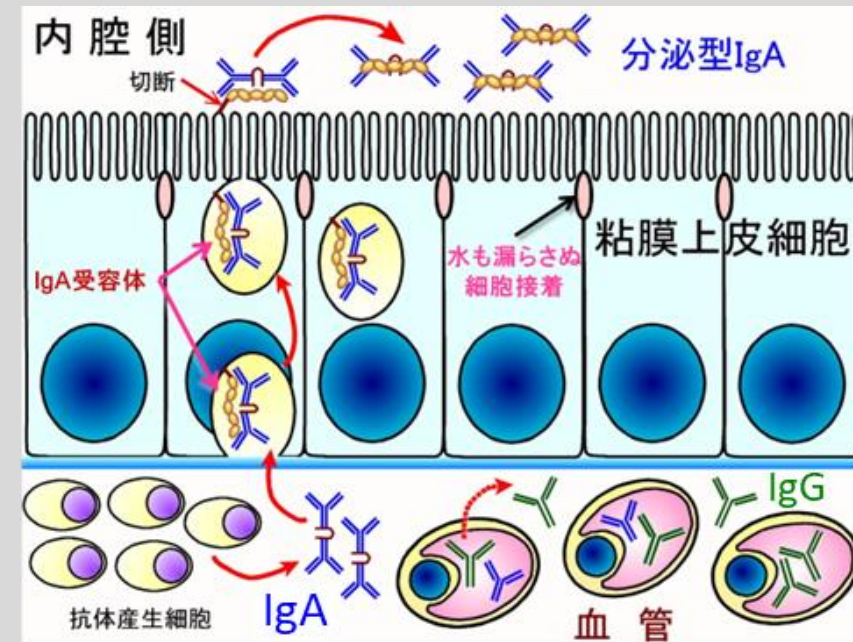
Vision

- 次の「いざ」に備えて、柔軟に対応できる研究開発体制を支えます
- 産学官の英知を結集し、世界に誇るワクチン研究開発基盤を強化していきます

令和5年度「ワクチン・新規モダリティ研究開発事業（一般公募）」
（応募36件中採択5件、採択率13.9%、民間企業では当社のみ）

当社の
「粉体噴射型 IgA 産生誘導経鼻ワクチンシステムの開発」が採択

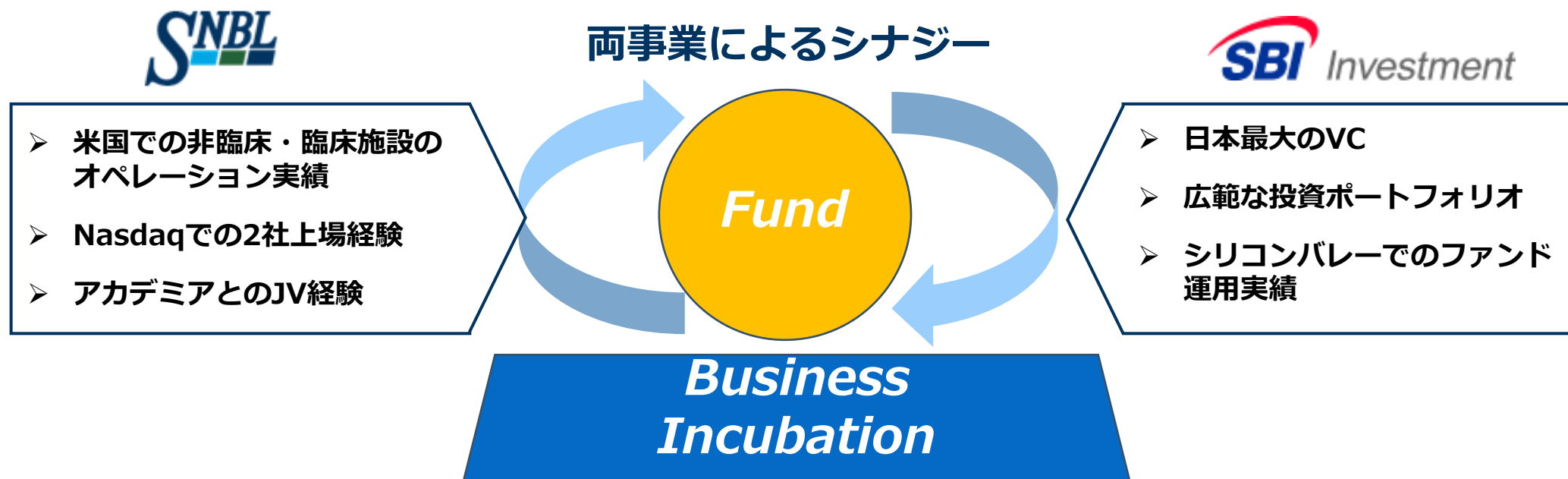
非臨床POC取得までで1億円の予算を獲得



出典：株式会社新日本科学

そもそも感染をおこさせないこと（遮断免疫）を狙った粉体型経鼻ワクチンの開発に向け、製剤化研究と非臨床試験系の確立を目指す。内容物の各要素を決定し、製剤化が進行中

- ・ 今年7月に当社が米国ワシントン州に所有するインキュベーション施設の運営会社をSBIグループと共同で設立
- ・ 今年9月に米国における両グループによるファンドを共同で設立

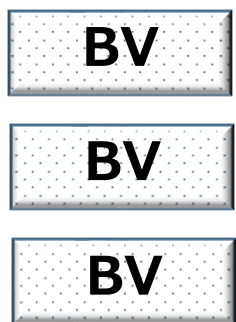


米国内にインキュベーション施設という形で投資活動拠点を構える事により、
現地VC等のネットワークを拡充し、既存投資先の米国進出サポート強化、
新規投資先の発掘や開拓を行い、現地インナーサークルから新たな投資機会を獲得する

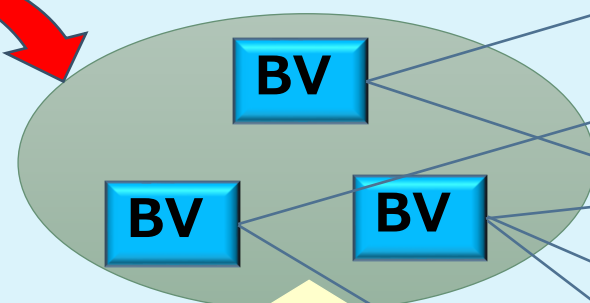
日本

米国

日系バイオベンチャー米国進出支援



SNBL Global Gateway (SGG)



施設提供 CROサービス支援
資金調達支援 事業開発支援
総務人事支援 経営戦略支援



ボストン

サンフランシスコ

サンディエゴ

ボルチモア

ニューヨーク

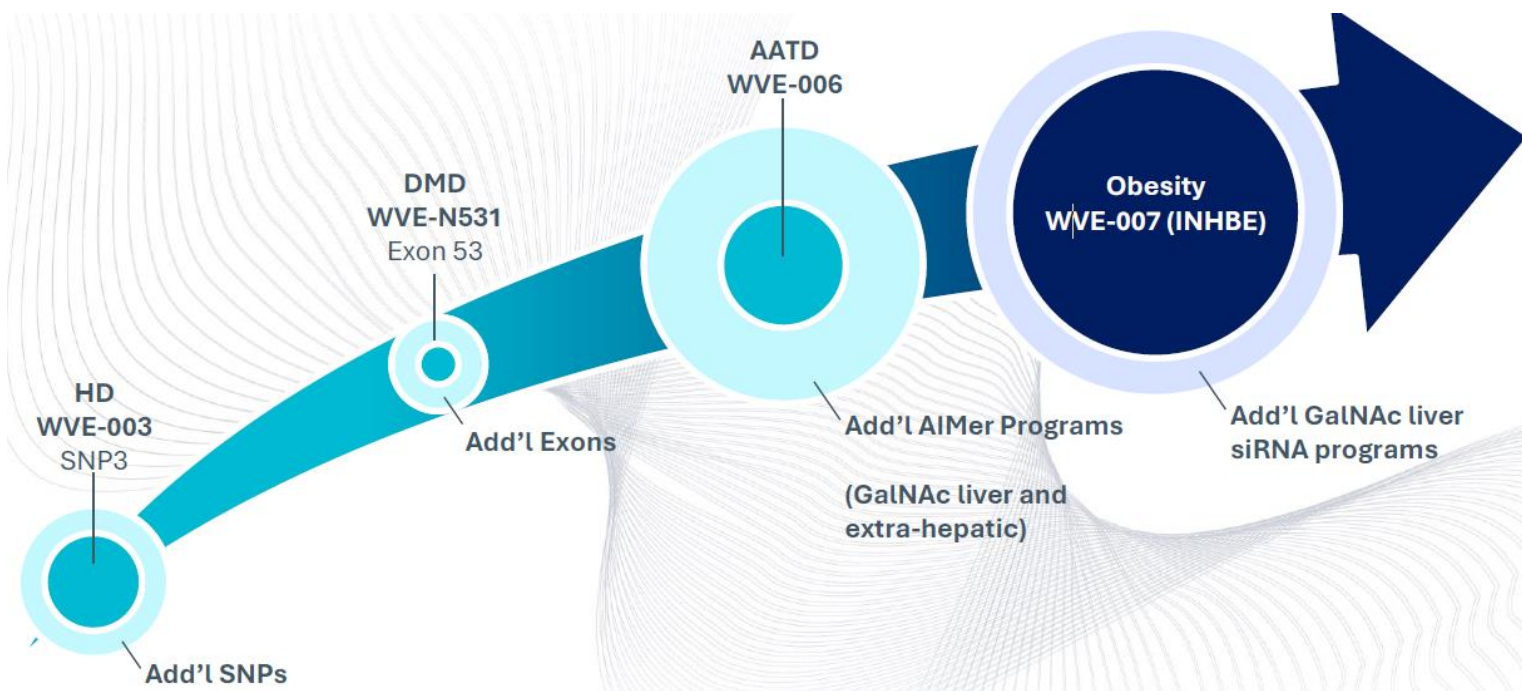
フィラデルフィア

RTP

立体制御合成プラットフォーム技術を用い遺伝性疾患薬を開発する核酸医薬ベンチャー

- 2021年より最新の立体制御合成技術を用いた臨床プログラムを開始
- 2022年12月よりGSKと遺伝子疾患を対象にRNA治療薬開発に関する戦略的コラボレーションを推進中（主要契約条件：Upfront1.7億USドル / Milestone 最大33億USドル+ Royalty）
- 今年ハンチントン病(HD)・デュシェンヌ型筋ジストロフィー(DMD)・自社RNA編集(ADAR)技術を活用した α_1 -アンチトリプシン欠乏症(AATD)に関するポジティブな臨床試験結果を発表
- 今年9月に230百万USドルの資本増強
- 来年第一四半期に肥満症治療用プログラム(INHBE)の臨床試験開始予定

- 当社がハーバード大学と東京大学の教授等と2008/2009年に日本と米国に子会社を設立。
- 2012年シンガポールに統合会社を設立した後スピンアウト
- 米国機関投資家を中心に資金調達し、2015年11月にNasdaq上場
- 当社株式保有比率6.2%



3. 事業トピックス

④ メディポリス事業



取締役副社長

CRO事業管掌・ホスピタリティ事業管掌

新日本科学PPD 代表取締役社長

永田 一郎

■ホスピタリティ事業

- ・人々のWellbeing（ウェルビーイング）、つまり全人的な健康の実現をメインコンセプトとした宿泊業を展開
- ・顧客へのおもてなしマインドを強化し、CRO事業の営業にも貢献

■水産事業

- ・生物多様性保全および地域貢献（鹿児島県はニホンウナギの生産国内第1位）を目的として、シラスウナギ（ニホンウナギの稚魚）の人工生産研究を実施
- ・2025年3月期は、大型水槽の開発等、生産規模拡大に向けた取組みを推進

■ 発電事業

- ・ 2015年2月から定格1,580kWのバイナリー型地熱発電所を稼働
- ・ 2024年3月期Q4より発電機の開放点検ならびに修繕のため稼働停止が発生していたが、2024年5月に修繕完了。現在は稼働再開し、安定的に発電継続中
- ・ 2025年3月期は、ホテルの浴用に用いている温泉泉源を活用した温泉発電所がQ4よりFIT売電開始予定

【直近5か年の売電実績】

	FY3/20	FY3/21	FY3/22	FY3/23 * 2	FY3/24
売電電力量 (kWh)	10,334,299	10,328,981	10,751,257	9,579,533	6,765,837
設備利用率 (%) * 1	74.7	74.6	77.7	69.2	48.9

* 1 発電設備の実際の年間送電量が、仮に100%の出力で稼働し続けた場合の送電量と比較して何%を占めるかを示す指標。この数値が高いほど、発電設備を有効利用できている。尚、一般的に太陽光13%、風力20%、地熱56%と言われている（電力広域的運営推進機関「2021年度供給計画のとりまとめ」より）

* 2 2023年3月期は、タービン開放点検等を含む法定点検実施のため、例年に比べて稼働停止時間が長く売電電力量および設備利用率が低下

4. Q&A



業績データ一覧

(百万円)	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期 (予想)
売上高	15,658	14,561	15,110	17,748	25,090	26,450	29,835
前年比	-5.7%	-7.0%	3.8%	17.5%	41.4%	5.4%	12.8%
売上総利益	6,177	7,615	7,554	9,687	13,046	14,282	16,308
売上総利益率	39.5%	52.3%	50.0%	54.6%	52.0%	54.0%	54.7%
営業利益	829	2,228	2,529	4,195	5,245	4,162	2,350
前年比	-	168.5%	13.5%	65.9%	25.0%	-20.6%	-43.5%
持分法による投資利益	361	888	846	1,439	2,489	2,751	2,981
経常利益	1,613	3,121	3,645	7,078	9,194	7,015	5,345
税前当期純利益	1,650	3,062	4,175	8,183	7,759	6,974	--
法人税等	-308	414	497	1,016	1,708	1,456	--
親会社株主に帰属する当期純利益	1,950	2,550	3,661	7,127	6,060	5,531	3,920
1株当たり当期純利益 (円)	46.84	61.25	87.95	171.20	145.56	132.86	94.15
海外売上高	4,015	2,317	2,100	3,091	6,575	8,637	--
海外売上高比率	25.6%	15.9%	13.9%	17.4%	26.2%	32.7%	--
株主資本	9,958	12,386	15,840	22,181	25,751	29,252	--
純資産額	28,477	16,381	15,838	19,723	26,359	34,160	--
総資産額	54,329	39,002	36,972	39,312	57,242	76,302	--
有利子負債	16,158	15,123	12,864	9,281	18,931	26,331	--
自己資本比率	52.3%	41.8%	42.6%	49.8%	45.8%	44.7%	--
設備投資額	1,612	1,514	1,025	1,703	5,614	8,525	10,559
減価償却費	1,361	1,229	1,187	1,177	1,544	1,774	2,751
研究開発費	339	400	392	425	683	1,741	3,121
売上高R&D比率	2.17%	2.75%	2.59%	2.39%	2.72%	6.58%	10.46%
期末従業員数 (人)	935	985	986	994	1,208	1,341	1,465
自己資本当期純利益率 (ROE)	7.1%	11.4%	22.9%	40.4%	26.5%	18.3%	--
総資産経常利益率 (ROA)	2.9%	6.7%	9.6%	18.6%	19.0%	10.5%	--
投下資本利益率 (ROIC)	-	11.7%	12.3%	18.4%	17.9%	10.3%	--
売上高営業利益率	5.3%	15.3%	16.7%	23.6%	20.9%	15.7%	7.9%
売上高経常利益率	10.3%	21.4%	24.1%	39.9%	36.6%	26.5%	17.9%
1株当たり配当額 (円)	3.0	5.0	20.0	40.0	50.0	50.0	50.0
配当性向	6.4%	8.2%	22.7%	23.4%	34.3%	37.6%	53.3%

1. 業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々なリスクや不確定な要素などの要因により、異なる可能性があります。
2. 本資料は国内外を問わず、投資勧誘またはそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。本資料の利用にあたっては、利用者の責任によるものとし、情報の誤りや瑕疵、目標数値の変更、その他本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。
3. この資料に含まれている医薬品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝 広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。
4. 当資料は「2025年3月期第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）」に準拠し作成しています。また、差額、比率については億円単位未満は切捨てて記載しております。

＜IRに関するお問い合わせ＞



株式会社新日本科学
IR広報統括部

電話：03-5565-6216

E-mail：ir@snbl.com

HP：https://snbl.com/